

# 教養セミナーⅡ

P-01-24-S

## ◇履修方法

教養セミナーⅡは、Ⅱ期に1テーマを選択し履修する。

### I 授業の目的

少人数による教育を通じて、教員および参加者相互でテーマをめぐって discussion しながら双方向的学習をすることにより、コミュニケーション能力、自主的学習態度を身につける。

### II 到達目標

テーマごとに提示する。

### III 教育内容

テーマ及び担当者：次頁の表のとおり

### IV 学習及び教育方法

セミナー：自主的かつ双方向的に学ぶ。

### V 評価の方法

出席を重視し、参加態度、理解度、発表内容、発表能力等を総合的に評価する。  
詳細は教員により異なる。

### VI 推薦する参考書

テーマごとに提示する。

Ⅱ期開講教養セミナー 一覧

テーマ	担当教員	開講予定時限
組織的不祥事事例の分析	神谷 隆一	火曜・1限目
ニュルンベルク綱領を本気で読む	竹山 重光	金曜・1限目
作文技術特訓Ⅱ	石井 拓	金曜・1限目
X線の物理	牧野 誠司	火曜・1限目
生命機能解明のための、機器分析化学	茂里 康	火曜・1限目
疑似科学を考える	藤村 寿子	金曜・1限目
炭素化合物と人間・社会	大町 遼	金曜・1限目
方程式の解法について	川谷 康太郎	火曜・1限目

配当学年：令和7年度入学生（1年次生）

## 組織的不祥事事例の分析（神谷 隆一）

企業をはじめとする組織における不祥事は後を絶たない。本セミナーでは、組織的不祥事事例をいくつか取り上げ、各々の事件の事実関係、発生原因、再発防止策、法的責任を検討し、組織的不祥事はなぜ起こるのか、再発防止策として何が有効なのかについて考察することを試みる。セミナーは演習形式で行い、レポート課題を課す。（評価の方法：授業での発表58%、レポート課題42%）。毎回、教科書の指定範囲及び配布資料を事前に十分読み込んで授業に参加することを求める。これらの学習により、組織的不祥事の原因分析・再発防止策について考察する力を身に着けることを目標とする。

テキストは、樋口晴彦『なぜ、企業は不祥事を繰り返すのか 有名事件13の原因メカニズムに迫る』（日刊工業新聞社）を用い、参考資料を適宜配布する。

なお、I期に「組織的不祥事事例の分析」を履修した学生は、履修登録を認めません。

オフィスアワー 火曜日 12:30～13:30

【連絡方法】 m-igaku★wakayama-med.ac.jp（三葛学生課まで）

【実施場所】 医学部三葛教育棟

【備考】 面談場所を用意しますので、事前に学生課に連絡願います

## ニュルンベルク綱領を本気で読む（竹山 重光）

「ニュルンベルク綱領」（The Nuremberg Code, 1946）は、20世紀後半このかたの医学医療を原理的次元で決定している最重要文書の一つである。医療従事者ならば必読の古典と言えるが、実際にオリジナルを読んだことのある者はそれほどいないだろう。竹山のこれまでの経験からすると、たいていは名前を知っているにすぎない。このセミナーでは、この文書を原文で読む。そして、理解をより十分なものとするために、JAMA や NEJM など医学専門誌に掲載されたこの文書をめぐる論文を原文で読む。論文の選択は竹山が行なう。

参加者それぞれが、「ニュルンベルク綱領」が成立した事情を知り、そこで宣言され「インフォームド・コンセント」という概念としてのちに結実する基本思想を成立事情とともに理解すること、その理解を踏まえて、自分の疑問点・着眼点を意識し、それを適切に言語化して表明できること、そして、他の参加者によるそうした表明を傾聴し、それに応答できること、さらに、竹山を含め参加者全員で、結論を無闇に求めるのではなく議論を深めて様々の可能性を探り出し共有すること、これらを目標とする。

筆記試験は行なわない。授業時の態度・発言・協力姿勢などいわゆる平常点を最も重視する（6割程度）。また、履修登録者数によって可変的だが、視聴覚教材に関する発表や竹山によって出された課題に対する応答の様子も評価する（3割程度）。

【特記】履修登録者の数によって、グループを組んでもらったり単独で担当してもらったり、授業の具体的な進め方は可変的である。したがって、上記の目標や評価法などもある程度は可変的となる。初回の授業で進め方などを説明し指示を行なう。上級生の与太話を鵜呑みせぬように。

## 作文技術特訓Ⅱ（石井 拓）

レポートや論文の執筆に取り組むことは、大学生にふさわしい知的能力を身につけるために必須の作業だと言えます。レポートや論文を書くには、テーマを定めて計画的に情報を集めて吟味し、それらを用いて主張を支持するための論証を組み立てた上で、筋道の通った文章で表現する必要があります。このセミナーではその具体的な方法を学びます。これらの各ステップに取り組み、作成した文章を何度も批判的に読んで改稿する作業に取り組んだ後では、そもそもこれまで自分は何かを深く考えることなどできていたのだろうか、と思うことでしょう。セミナーを受講する上で予備知識は特に必要ありませんが、ワードプロセッサを使う環境を準備しておけば文章の推敲がしやすくなります。評価は、授業中に課された課題への取り組み（100%）に基づいて行ないません。ただし、無断欠席がある場合は評価の対象となりません。テキストは、戸田山和久 著『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』（2022年、NHK ブックス）を用います。なお、このセミナーはI期に「作文技術特訓Ⅰ」を選択したか否かにかかわらず選択できるものとします。

オフィスアワー 月曜日 16:30～17:30

【連絡方法】 tishii★wakayama-med.ac.jp

【実施場所】 医学部三葛教育棟3階心理学教員室

### X線の物理（牧野 誠司）

医療の現場などで用いられているX線について学ぶ。まず、放射線全般について学習し（放射線の発生や物質との相互作用、放射線検出器、放射線の人体への影響など）、次に、X線の発生や検出、医療への応用について学ぶ。以上を到達目標とする。提示するテーマより1人あたり1テーマを担当して発表してもらい、また、半導体X線検出器を用いた実験（蛍光X線分析など）を行って、X線の性質について理解を深める。評価は、受講態度・参加度50%、発表（内容・資料）50%で行う。

オフィスアワー セミナー終了後約10分間

【連絡方法】事前連絡不要。セミナーを行った講義室等で対応する。

### 生命機能解明のための、機器分析化学（茂里 康）

生命科学で用いられている、各種機器分析の原理・方法・応用例を学ぶ事を到達目標とする。例えばポストゲノム時代の解析手法として、タンパク質の発現及び機能を網羅的に解明する研究「プロテオーム解析」や、代謝物質の網羅的解析の「メタボローム解析」等が代表例として、近年急速に技術革新が起こっている。これらの最先端の機器分析技術のみならず、古典的であるが日常的に用いている各種機器分析の知識をも習得する。そのためにも最新の学術論文も取り入れながら学び、単に一方向の座学にならないように討議を中心に実施する。評価の方法としては、授業での発表を100%とする。

オフィスアワー 水曜日 16:00~18:00

【連絡方法】yshigeri★wakayama-med.ac.jp（三葛学生課まで）

【実施場所】医学部三葛教育棟

### 疑似科学を考える（藤村 寿子）

疑似科学とは「ニセ科学」や「似非（エセ）科学」などとも呼ばれ、科学を装いながら実際には科学的根拠が無い、または弱い言説のことをいう。健康に良いとか病気が治るといったうたい文句とともに、世の中には疑似科学に基づいた考えや製品が広く普及し、時には社会に悪影響を及ぼす。このセミナーでは、疑似科学といわれている言説を批判的に捉えることを通して、科学的に物事を考える力を養うことを目標とする。受講生には、各自が設定した疑似科学に関するテーマについて調査し、その成果を発表してもらう。評価の方法:授業での発表45%、授業参加度55%

オフィスアワー 金曜日 16:30~17:30

【連絡方法】Teamsのチャット

【実施場所】医学部三葛教育棟

### 炭素化合物と人間・社会（大町 遼）

炭素は生体の構成する元素として多くの割合を占める、極めて重要な元素である。また、人類は石油・石炭といった炭素資源をエネルギー源として活用するとともに、新たな価値ある炭素化合物として新素材・医薬などを生み出してきた。人間社会は炭素化合物に囲まれていると言っても過言ではない。有機分子をはじめとする炭素化合物に着目し、その背景にある事柄を学び、自然界や人間社会でどのような関わりをしているか、知識を深めるとともに議論と発表能力を養うことを到達目標とする。評価の方法:発表50%、質疑など授業への取り組み30%、課題20%

オフィスアワー 月曜 16:00~17:00

【連絡方法】omachi★wakayama-med.ac.jp

### 方程式の解法について（川谷 康太郎）

高校までで習う二次方程式や、あまり習うことのない三次方程式や四次方程式の様々な解法（や解の公式）を中心に各自で調べてもらう。それについて受講生が発表したり、他の人の発表を批判的に聞くことを通じて、高校までとは異なる数学の一端に触れることを目指す。それに加え、大学生らしい学習の経験を積むことで論理的な考え方について学ぶ。

評価の方法:授業での発表50%、レポート課題50%

オフィスアワー 月曜 16:00~17:00



## 講義日程表（組織的不祥事事例の分析）

No.	月日	曜日	時限	項目	担当教室	担当
1	R6.9.2	(火)	1	ガイダンス	法学教室	神谷
2	R6.9.9	(火)	1	組織的不祥事事例の分析	法学教室	神谷
3	R6.9.16	(火)	1	組織的不祥事事例の分析	法学教室	神谷
4	R6.9.30	(火)	1	組織的不祥事事例の分析	法学教室	神谷
5	R6.10.7	(火)	1	組織的不祥事事例の分析	法学教室	神谷
6	R6.10.14	(火)	1	組織的不祥事事例の分析	法学教室	神谷
7	R6.10.21	(火)	1	組織的不祥事事例の分析	法学教室	神谷
8	R6.10.28	(火)	1	組織的不祥事事例の分析	法学教室	神谷
9	R6.11.4	(火)	1	組織的不祥事事例の分析	法学教室	神谷
10	R6.11.11	(火)	1	組織的不祥事事例の分析	法学教室	神谷
11	R6.11.18	(火)	1	組織的不祥事事例の分析	法学教室	神谷
12	R6.11.25	(火)	1	組織的不祥事事例の分析	法学教室	神谷
13	R6.12.2	(火)	1	組織的不祥事事例の分析	法学教室	神谷
14	R6.12.9	(火)	1	授業のまとめ	法学教室	神谷

## 講義日程表（ニュルンベルク綱領を本気で読む）

No.	月日	曜日	時限	項目	担当教室	担当
1	R7.9.5	(金)	1	綱領本文を原典で読む	哲学・倫理学	竹山
2	R7.9.12	(金)	1	綱領本文を原典で読む	哲学・倫理学	竹山
3	R7.9.19	(金)	1	綱領本文を原典で読む	哲学・倫理学	竹山
4	R7.9.26	(金)	1	綱領本文を原典で読む	哲学・倫理学	竹山
5	R7.10.3	(金)	1	綱領研究文献を原典で読む	哲学・倫理学	竹山
6	R7.10.10	(金)	1	綱領研究文献を原典で読む	哲学・倫理学	竹山
7	R7.10.24	(金)	1	綱領研究文献を原典で読む	哲学・倫理学	竹山
8	R7.10.31	(金)	1	綱領研究文献を原典で読む	哲学・倫理学	竹山
9	R7.11.7	(金)	1	綱領研究文献を原典で読む	哲学・倫理学	竹山
10	R7.11.14	(金)	1	綱領研究文献を原典で読む	哲学・倫理学	竹山
11	R7.11.21	(金)	1	綱領研究文献を原典で読む	哲学・倫理学	竹山
12	R7.11.28	(金)	1	綱領研究文献を原典で読む	哲学・倫理学	竹山
13	R7.12.5	(金)	1	綱領研究文献を原典で読む	哲学・倫理学	竹山
14	R7.12.12	(金)	1	綱領研究文献を原典で読む	哲学・倫理学	竹山

## 講義日程表（作文技術特訓Ⅱ）

No.	月日	曜日	時限	項目	担当教室	担当
1	R7.9.5	(金)	1	ガイダンス、執筆テーマ検討	心理学	石井
2	R7.9.12	(金)	1	執筆テーマに関する下調べ	心理学	石井
3	R7.9.19	(金)	1	アウトライン作成	心理学	石井
4	R7.9.26	(金)	1	初稿執筆	心理学	石井
5	R7.10.3	(金)	1	初稿執筆	心理学	石井
6	R7.10.10	(金)	1	初稿 概要発表と検討	心理学	石井
7	R7.10.24	(金)	1	改稿準備	心理学	石井
8	R7.10.31	(金)	1	改稿	心理学	石井
9	R7.11.7	(金)	1	改稿	心理学	石井
10	R7.11.14	(金)	1	改訂稿 概要発表と検討	心理学	石井
11	R7.11.21	(金)	1	最終稿 執筆準備	心理学	石井
12	R7.11.28	(金)	1	最終稿 執筆	心理学	石井
13	R7.12.5	(金)	1	最終稿 概要発表と検討	心理学	石井
14	R7.12.12	(金)	1	最終稿 概要発表と検討	心理学	石井

## 講義日程表 (X線の物理)

No.	月日	曜日	時限	項目	担当教室	担当
1	R7.9.2	(火)	1	セミナーの進め方等の説明	物理学	牧野
2	R7.9.9	(火)	1	・X線を含む放射線についての受講生による発表 ・X線についての実験(蛍光X線分析など)	物理学	牧野
3	R7.9.16	(火)	1		物理学	牧野
4	R7.9.30	(火)	1		物理学	牧野
5	R7.10.7	(火)	1		物理学	牧野
6	R7.10.14	(火)	1		物理学	牧野
7	R7.10.21	(火)	1		物理学	牧野
8	R7.10.28	(火)	1		物理学	牧野
9	R7.11.4	(火)	1		物理学	牧野
10	R7.11.11	(火)	1		物理学	牧野
11	R7.11.18	(火)	1		物理学	牧野
12	R7.11.25	(火)	1		物理学	牧野
13	R7.12.2	(火)	1		物理学	牧野
14	R7.12.9	(火)	1		物理学	牧野



## 講義日程表（生命機能解明のための機器分析化学）

No.	月日	曜日	時限	項目	担当教室	担当
1	R7.9.2	(火)	1	ガイダンス	化学	茂里
2	R7.9.9	(火)	1	機器分析化学関連の英語論文輪読(1)	化学	茂里
3	R7.9.16	(火)	1	機器分析化学関連の英語論文輪読(2)	化学	茂里
4	R7.9.30	(火)	1	機器分析化学関連の英語論文輪読(3)	化学	茂里
5	R7.10.7	(火)	1	機器分析化学関連の英語論文輪読(4)	化学	茂里
6	R7.10.14	(火)	1	機器分析化学関連の英語論文輪読(5)	化学	茂里
7	R7.10.21	(火)	1	機器分析化学:吸光分析(1)	化学	茂里
8	R7.10.28	(火)	1	機器分析化学:吸光分析(2)	化学	茂里
9	R7.11.4	(火)	1	生体分析化学関連の英語論文輪読(1)	化学	茂里
10	R7.11.11	(火)	1	生体分析化学関連の英語論文輪読(2)	化学	茂里
11	R7.11.18	(火)	1	生体分析化学関連の英語論文輪読(3)	化学	茂里
12	R7.11.25	(火)	1	生体分析化学関連の英語論文輪読(4)	化学	茂里
13	R7.12.2	(火)	1	生体分析化学関連の英語論文輪読(5)	化学	茂里
14	R7.12.9	(火)	1	まとめ・討論	化学	茂里

## 講義日程表（疑似科学を考える）

No.	月日	曜日	時限	項目	担当教室	担当
1	R7.9.5	(金)	1	ガイダンス	物理学	藤村
2	R7.9.12	(金)	1	テーマに関する調査・研究(1)	物理学	藤村
3	R7.9.19	(金)	1	テーマに関する調査・研究(2)	物理学	藤村
4	R7.9.26	(金)	1	テーマに関する調査・研究(3)	物理学	藤村
5	R7.10.3	(金)	1	研究発表・討論(1)	物理学	藤村
6	R7.10.10	(金)	1	研究発表・討論(2)	物理学	藤村
7	R7.10.24	(金)	1	研究発表・討論(3)	物理学	藤村
8	R7.10.31	(金)	1	研究発表・討論(4)	物理学	藤村
9	R7.11.7	(金)	1	研究発表・討論(5)	物理学	藤村
10	R7.11.14	(金)	1	研究発表・討論(6)	物理学	藤村
11	R7.11.21	(金)	1	研究発表・討論(7)	物理学	藤村
12	R7.11.28	(金)	1	研究発表・討論(8)	物理学	藤村
13	R7.12.5	(金)	1	研究発表・討論(9)	物理学	藤村
14	R7.12.12	(金)	1	研究発表・討論(10)	物理学	藤村

## 講 義 日 程 表 (炭素化合物と人間・社会)

No.	月日	曜日	時限	項 目	担当教室	担当
1	R7.9.5	(金)	1	ガイダンス・テーマ選択	化学	大町
2	R7.9.12	(金)	1	グループ単位でのワーキング	化学	大町
3	R7.9.19	(金)	1	グループ単位でのワーキング	化学	大町
4	R7.9.26	(金)	1	グループ単位でのワーキング	化学	大町
5	R7.10.3	(金)	1	プレゼンテーション・解説講義	化学	大町
6	R7.10.10	(金)	1	プレゼンテーション・解説講義	化学	大町
7	R7.10.24	(金)	1	プレゼンテーション・解説講義	化学	大町
8	R7.10.31	(金)	1	グループ単位でのワーキング	化学	大町
9	R7.11.7	(金)	1	グループ単位でのワーキング	化学	大町
10	R7.11.14	(金)	1	グループ単位でのワーキング	化学	大町
11	R7.11.21	(金)	1	プレゼンテーション・解説講義	化学	大町
12	R7.11.28	(金)	1	プレゼンテーション・解説講義	化学	大町
13	R7.12.5	(金)	1	プレゼンテーション・解説講義	化学	大町
14	R7.12.12	(金)	1	まとめ	化学	大町

## 講義日程表（方程式の解法について）

No.	月日	曜日	時限	項目	担当教室	担当
1	R6.9.2	(火)	1	オリエンテーション	数学・統計学	川谷
2	R6.9.9	(火)	1	二次方程式の解法について	数学・統計学	川谷
3	R6.9.16	(火)	1	二次方程式の解法について	数学・統計学	川谷
4	R6.9.30	(火)	1	三次方程式、四次方程式の解法について	数学・統計学	川谷
5	R6.10.7	(火)	1	三次方程式、四次方程式の解法について	数学・統計学	川谷
6	R6.10.14	(火)	1	三次方程式、四次方程式の解法について	数学・統計学	川谷
7	R6.10.21	(火)	1	三次方程式、四次方程式の解法について	数学・統計学	川谷
8	R6.10.28	(火)	1	三次方程式、四次方程式の解法について	数学・統計学	川谷
9	R6.11.4	(火)	1	三次方程式、四次方程式の解法について	数学・統計学	川谷
10	R6.11.11	(火)	1	三次方程式、四次方程式の解法について	数学・統計学	川谷
11	R6.11.18	(火)	1	三次方程式、四次方程式の解法について	数学・統計学	川谷
12	R6.11.25	(火)	1	三次方程式、四次方程式の解法について	数学・統計学	川谷
13	R6.12.2	(火)	1	三次方程式、四次方程式の解法について	数学・統計学	川谷
14	R6.12.9	(火)	1	三次方程式、四次方程式の解法について	数学・統計学	川谷